



は し ん ぶ ん よつの葉新聞

福島県立平支援学校

第 20 号

令和7年11月吉日発行

～ 互いに認め合い、学び合い ～

教頭 松浦 真由美

「一緒に校歌を歌いました。」「緊張したけど、楽しかったです。」達成感に満ち溢れた表情で帰校した中学部の生徒たち。この日は、いわき市立赤井中学校との交流及び共同学習がありました。音楽の授業で、お互いの校歌を紹介したり、『翼をください』の曲を合唱したりしながら、お互いのことを知り、一緒に歌うことを通して、つながり合うことができた貴重な学習経験になったのだと、生徒たちの表情から感じることができました。

今年度、平支援学校では、平第四小学校や赤井中学校、いわき総合高等学校、いわき支援学校やふたば支援学校との学校間交流を予定しています。コロナ禍で継続が難しかった時期もありましたが、昨年度から、対面での学習を進めることができるようになってきました。また、小学部では、居住地校交流を行っている児童もいます。

本校の児童生徒にとって、地域で共に学ぶ経験は、集団での学習経験の拡大とともに、自分自身を知る学びの場にもなっています。そして、私たち教員にとっても、地域の学校での学びを知り、子どもたちが、これから地域の中で生きていくために必要なことは何か、考える機会になっています。

「交流及び共同学習」を通して、子どもたちは、子どもなりの「違い」を感じることもあるかと思います。しかし、人は、一人一人違う存在です。人間はなぜか、「同じ」であることに、安心感を覚えたりするものですが、「違う」からこそその良さ、「違う」からこそ気付けることや感じることに、改めて考えることができるのではないのでしょうか。お互いを知り、「違い」を感じ、「違い」を受け止める中で、共に学ぶために必要なことは何か…そのためにも「交流及び共同学習」は、大切な学び合いの場です。

これからも、地域の小学校、中学校、高等学校、特別支援学校との「交流及び共同学習」を続ける中で、互いに認め合い、学び合うことがさらに広がっていくことを心より願っています。

最後に、交流及び共同学習を進めていくにあたり、当日の学習活動に向け、事前の打ち合わせや事後の振り返りなど、子どもたちのために共に検討を重ね、共に歩んでいただいている皆様に、この場をお借りして感謝申し上げます。そして、これからもどうぞよろしくお願いいたします。

～ 地域支援センター特別支援教育研修会 ～

8月20日(水)に、本校で『地域支援センター特別支援教育研修会』が行われました。講師に福島県総合療育センター精神科医の伊瀬陽子氏をお招きして、「発達特性をもつということー困難さと支援の視点 医師の立場からー」というテーマで講演をいただきました。参加された先生方からは、「普段はなかなか聞けない医療的な視点からの話が聞けてとても有意義だった。」「学校での指導・支援に生かせるものであった。」などの声をいただきました。



早期教育相談「あ・そ・び・ば」

本校では、心身の発達が気になる就学前のお子さんを対象とした遊びの広場「あ・そ・び・ば」を開催しています。感触遊びや体操・リトミック、お話遊びなど、季節やお子さんの興味関心に合わせた遊びの中で、体を動かしたり、友達や教師、家族と関わり合ったりしながら活動しています。



出かける支援 ～地域支援体制整備事業～

地域支援センターでは、地域の幼稚園・小中学校・高等学校からの要請を受けて、教育相談や研修支援を行っています。

今年度は、地域の小中学校で学んでいる肢体不自由のある児童の学習や身体の動きへの支援や配慮に関わる教育相談、高等学校で学んでいる生徒の学習の工夫や進路指導に関わる教育相談を実施しています。また、小中学校で学ぶ病弱や医療的ケアを必要とする児童生徒に関わる教育相談等も関係機関と連携しながら進めています。「共に学ぶための支援は本人と一緒につくるもの」と考えます。子どもたちを真ん中に、本人らしくより豊かに学び続けることができるように、関係機関の皆様とつながり、対話を深めながら今後も取り組んでいきたいと考えています。

